

G★U★M★B★O

アジア地域の自動車産業(記者:藤田泰)

みなさん、毎日の業務お疲れ様です。さて、最近は、当社の海外納入先にもアジア地域が増えてきました。同地域の経済発展に伴う自動車の生産台数の増加が要因です。今回は、生産能力と販売台数を軸として、現在と将来、および、スズキ社の動向をレポートします。なお、今回は紙幅の制限により、EV等の次世代ビークルについては触れません。

アジア(日本・中国を除く)における自動車生産能力は2021年に2,300万台を超える見通しである。2017年9月時点と比較すると、200万台の増加である。特に、中長期的な内需拡大が見込まれるインドで、約150万台の生産能力増強が予定されているほか、ASEANでは50万台程度が追加される見込みである。同地域における生産能力を自動車メーカー別にみると、現代自・起亜の生産能力は2017年時点において460万台強であるが、今後この能力が大幅に増加する要素は少ない。これは、280万台強のトヨタ・ダイハツ・日野、160万台強の日産・ルノーにおいても同様である。その一方で、スズキは現在の226万台から、2021年には約280万台への生産能力増強が予測される。

ここで、経済発展が著しいインドにおける自動車生産の動向を注視してみる。インドの2017年1~6月の自動車生産台数は、前年同期比5.6%増の233万台であった。同期間での国内販売は6.0%増、完成車輸出は8.1%増となり、内需と輸出の双方が拡大した。2017年通期では、480万台前後への拡大が見込まれる。

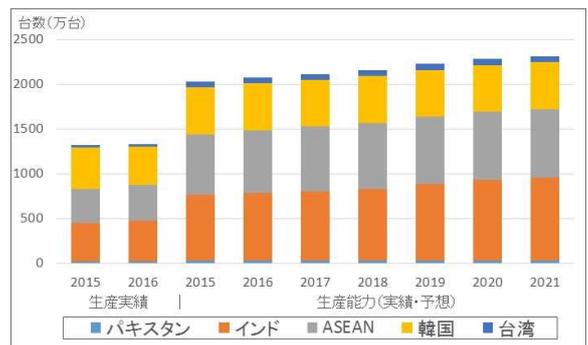
車種別では、乗用車(ユーティリティ、小型バン含む)が9.5%増となった。Muruti Suzukiや現代自等の乗用車大手の増産に加えて、FordやVWによるBセグメント車の輸出向け生産の拡大などが寄与した。新車投入が続くユーティリティは13.8%増と大きく伸びた。その一方で、商用車は13.8%と縮小、特に、中型トラックが24.2%減となった。

メーカー別では、最大手Maruti Suzukiが17.8%増の84.8万台。2017年2月のGujarat新工場でも生産を開始したBalenoは43.0%増と大幅に増加した。その他の既存車種も、モデル末期となったDzire(2017年5月全面改良)を除く全モデルを増産した。現代自は2.0%増の31.8万台であった。その他のメーカーでは、排ガス基準強化の影響から中大型商用車の生産を大きく減らした。その中で、Mahindraは下げ幅を小幅に留め、Tata Motorsを抜いて生産3位に浮上した。また、Fordは、欧州向けFigoの生産拡大などで27.4%増として、乗用車生産3位となった。

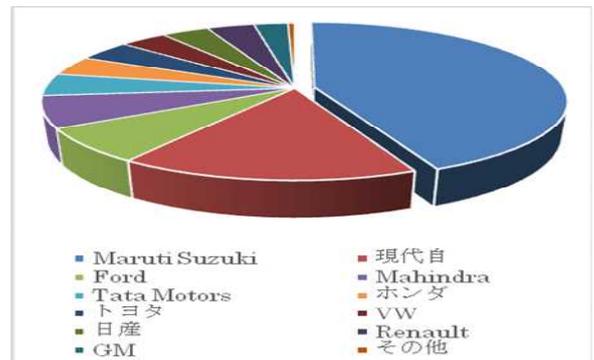
スズキ全体では、2018年3月期通期の四輪車の世界販売見込みは前期比6%増の310万台である。インドを含むアジアでの販売台数は前期比7%増の201万台、欧州も前期比10%増の27万台、日本市場は1%増の64.5万台と堅調である。また、4~9月期の四輪車の世界販売は前年同期13%増の158万台となり、過去最高を記録した。軽自動車が復調している日本が7%増、欧州も20%増好調だった。特に、インドの82.6万台は、同社の世界販売の52%を占めている。

このように、アジア、特に、インドの自動車市場は活況であり、最大手のスズキは積極的な設備投資とマーケティング戦略を継続展開することが明らかです。私たちも、その展開に対応して、優れた製品と技術を納入するように、努力しましょう。

アジア、国・地域別自動車生産台数・生産能力(実績・予測)



インド、メーカー別乗用車生産比率 2017年1~6月



僕はエビになりたい(記者:山内)

自分はエビが好きです。子供の頃から寿司屋に行けばエビ、フライと言えばエビ、天ぷらといえばエビと、とにかく海老が好きです。今でも寿司を食べに行けば8割は海老を食べています。そんな自分ですが、今年の夏、息子がザリガニを捕まえてきて「ザリガニ飼いたい!」と言われました。まあ いいかなと思いい水槽を買いザリガニを飼育し始めました。

ザリガニを飼い始めてすぐ「そういえば昔淡水のエビを飼育したかったっけ...」と思い出し、ついでにエビも飼育しようと、色々調べてエビ飼育も始めました。淡水のエビには色々な種類がいるのですが、自分はカラフルな色が楽しめる「チェリーシュリンプ」と言われるエビと、飼育が若干難しい「レッドシャドーシュリンプ」というエビをメインに飼育しています。一度環境が整ってしまえばそれほど手間も掛からず、毎日エビを眺めて心癒されています。比較的飼育&繁殖の容易なエビは寿命が1年~2年と短いので卵を産み稚エビが産まれて成長し、また卵を産むという感じで何代にも亘って飼育を楽しめます。

みなさんも是非エビとはいいいませんが、アクアリウムをしてみませんか!? 最後になりましたが、息子が捕まえたザリガニは現在2匹となり、最初に捕まえたザリガニは数回の脱皮を繰り返し青いザリガニになりました(笑)



新編集員(記者:吉野)

今回、人間の心理(テーマ)は、《話し方から性格を見抜く》です。話し方から性格を見抜くテクニックについて、紹介していきます。

話をしている時、とても声が大きい人がいますが、これは、自分中心の考え方をしている人です。周囲の事が気にならない人ほど、大声で話します。逆に、周囲の事が気になる人ほど、小声で話をします。従って、声が大きい人ほど、あまり人の話を聞いていません。自分の話に夢中で、自分の話だけが重要と考えているからです。ただし、こういう人に限って、実行力がある為、社会的な権力をもっていたり、頼りになったりします。

最後に、会話をしている時に、口を開けずに鼻で笑う人は、自分は人よりも優れていると思って、人を見下している人なのかもしれません。話し方で人の性格が分かれば、いろいろな場面で対応した会話ができるかもしれません。

次回も引き続き人間の心理について考えていきます。

気になったこと(記者:杉浦)

寒い・・・ 急激な気温の変化に負けてエアコンのスイッチを押してしまう今日この頃、皆様如何お過ごしでしょうか?

寒くなると増加するのが突然死、朝起きて布団から出たとき、家から外へ出たとき、お風呂に入るとき、トイレに入ったとき、「寒い」ブルツとした瞬間、突然死の危険性が潜んでいます。突然死とは、症状が出てから24時間以内に死亡に至ることで、心疾患、脳血管障害など死因が特定できるものと、解剖をしても死因の特定できないものがあります。温度差による急激な血管の収縮が血管壁にダメージを与え、場合によっては健常者さえも死に至らしめます。トイレでのいきみ、暴飲暴食、喫煙、アルコール、ストレスなどが過ぎれば危険が増します。

対処としては、温度差を減らす為の暖房の使用、ゆったりとしたストレッチ、ゆとりをもった生活などです。くらげになりたいと思った編集長でした。それでは皆様ごきげんよ〜^^ノシ